

試聴会・訪問記掲載

河口無線 FULL Grandioso 試聴会報告(2015.1.17)

河口無線で開催された、エソテリックのフラッグシップ・シリーズ<Grandioso>の「Grandioso-P1」「Grandioso-D1」「Grandioso-C1」「Grandioso-M1」の"FULL Grandioso"試聴会の報告です。使用機材は次のとおりで、クロックはRbクロックジェネレーターから供給されていました。



エソテリック SACD トランスポート Grandioso-P1 ¥2,700,000

エソテリック モノラル D/A コンバーター Grandioso-D1 ¥2,700,000 (ペア)



エソテリック プリアンプ Grandioso-C1 ¥2,700,000



エソテリック モノラルパワーアンプ Grandioso-M1 ¥3,024,000 (ペア)



B&W スピーカーシステム 800Diamond ¥3,672,000 (ペア)

"FULL Grandioso"が聴けるという試聴会であることに興味を引いたのか、満席で後からの参加者に椅子が追加されたほどでした。

試聴は ESOTERIC 設立の経過、製品開発のコンセプト、今回の Grandioso 開発の経過の説明から進められ、個々の機器の特徴を交えながら SACD と CD の試聴が行われました。

最初は、ケルテス/ウイーンフィルの新世界の ESOTERIC リマスター盤から始まり、次のようなラインアップで試聴が進められていきました。

女性ボーカル

カウントベーシー

カンターテドミノ

ヴィヴァルディ四季

バッハ無伴奏チェロ組曲

加藤登紀子知床旅情

鬼太鼓座

ソニーロリンズのヨーロッパ録音のモノ盤

ざっとした印象では、どの音楽ジャンルでも細かい音まで描き分けて見通しがよくクリーンでクリアーな、いかにも日本的な美の世界を見せてくれ、オーディオ誌上で高評価を得ている理由が分かりました。加藤登紀子などはまるで印象が違いましたし、鬼太鼓座の重低音がかなり広い試聴室を揺るがしました。欲を言えば、ジャズではスマートすぎて泥臭さがなく、クラシックではもう少し弦の艶とか潤い感が欲しい感じがしました。このような音は Rb クロックをトランスポートと 2 台の DAC にパラレルに送り、日本電波工業製の内蔵クロックを較正するのではなく、まったく入れ替えてしまうこと、また L/R 両チャンネルの DAC の間もクロックをシンクロさせていることなどの成果が出ているものと思われます。

終わってからも参加者の熱心な質問が相次ぎ、ESOTERIC フアンの多いことがわかりました。

#### 【補足】

帰宅後、加藤登紀子の同じ CD を下記のルートで聴いてみました。

PC→micro iDSD→DA-3000 (44.1 KHz) →MYTEK DIGITAL 192-DSD  
(DA-3000 よりクロック供給)

Plextor Premium 2U→【ES-OT4】→PC

また、ケルテス/ウイーンフィルの新世界の ESOTERIC リマスターのアナログ盤を LP12/Ortofon SPU Royal N/iPhono の組み合わせで聴いてみました。SACD 盤もありますが、マランツの SACD/CD プレイヤーはほとんど稼働していません。

加藤登紀子の方は、DSD 変換し、真空管アンプで駆動していますので、アナログ盤に近く、Grandioso とは随分と印象が違います。新世界のアナログ盤もデモで聴いた

SACD と随分と印象が違います。ハイエンドの音に慣れた **ESOTERIC** フォンには **Grandioso** の音はたまらないでしょうし、真空管サウンドやアナログフォンはこちらの方で良いのではないかということになるでしょう。